



特別講演 2

SL2

今、漢方を考える — 複雑系と要素還元論の狭間で —

てらさわ かつとし
寺澤 捷年

(社)日本東洋医学会 会長
千葉中央メディカルセンター和漢診療科 部長



本年2月5日、厚生労働省は省内の縦割り行政を横断的に捕らえる「統合医療プロジェクトチーム」を立ち上げた。これは現在、急速な進歩を遂げつつある西洋医学がますます専門分化の道を歩みつつある現況に対して、全人的な統合的な視点が必要であるとの認識に基づいて為された政府の具体的な行動である。USAにおいてもCAM(補完代替医療)の重要性が認識されており、近年、莫大な研究費が投入されている。しかし、USAと我が国では本質的な文化の相違がある。それは我が国には「漢方」という統合医療の体系が既にあるからである。

このパラダイム(思考の枠組み)が全く異なった「もう一つ」の医療体系を持つことは、国際的に見ても我が国の誇るべき優位性である。しかし、残念ながらこの国の医療に携わる人々はその優位性を認識していない。それには「漢方」の側にも反省すべき点があって、その作用機序や客観的な有用性を科学的な研究手法によって提示する手段を持たなかったのである。

臨床の現場にあって、演者はこの素晴らしい「漢方」の統合医療としての理念を生かすための二つのパラダイムの和諧を求めて来た。この理念を実現するために辿った「和漢診療学」形成の足跡を提示したい。それは「複雑系と要素還元論の狭間で」での作業であった。

実は「漢方」の有用性に関する認識は医療提供者としての医師・薬剤師よりも一般市民の方が豊富な情報を把握している現状がある。これはITの急速な進歩によっている。最大の問題は、この「もう一つ」の医療について、医療提供者の認識が不十分であることである。何故、医療提供者の側が国民の要請に十分に答えられていないのか。それは西洋医学の「科学性」にのみ心を奪われ、医師・薬剤師の本来の歩むべき道を見失った結果に他ならない。

略歴

1944年 11月21日生
1970年 千葉大学医学部卒業
1970年 千葉大学医学部第一内科医員
1975年 同・大学院入学(中枢神経解剖学専攻)
1979年 同・大学院同修了(医学博士)
富山医科薬科大学附属病院和漢診療部長
1982年 同・助教授
1990年 同・教授
1993年 富山医科薬科大学医学部和漢診療学講座教授
1999年 富山医科薬科大学医学部長(兼任・2ヶ年間)
2002年 富山医科薬科大学副学長・附属病院長(専任・2ヶ年間)
2004年 富山医科薬科大学大学院医学研究科教授
(21世紀COEプログラムPMOP担当)
2005年 千葉大学大学院医学研究院和漢診療学教授
現在 千葉中央メディカルセンター和漢診療科・部長

学会活動等

日本東洋医学会会長、東亜医学協会理事長、和漢医薬学会監事、国際東洋医学会理事

賞

北里研究所「大塚敬節賞」受賞(1986年7月)
陳立夫中医薬学術奨賞(1996年4月)
日本東洋医学会学術奨励賞(1997年5月)
和漢医薬学会学会賞(2002年8月)
日本東洋医学会学術賞(2005年6月)
日本医史学会・矢数道明医史学賞(2008年6月)
武見記念・生存科学賞(2009年11月)